

# 国 語

( 1 期 )

## 国語（1期）

### 第1問

次の文章（文章A・B）は、大坪庸介著『仲直りの理<sup>ことわり</sup> 進化心理学から見た機能とメカニズム』からの抜粋（文章Aは第3章、文章Bは第7章のそれぞれ一部分）である。これらの文章を読んで、後の問いに答えよ。

#### 〔文章A〕

友好的な関係のパートナーとは、普段から毛づくろいをしてくれたり、他の個体とケンカをしているときには援助してくれたりする相手のことです。このことから、霊長類学者のドウ・ヴァールは、仲直りの機能は自分にとって有益な関係、つまり価値のある関係をささいなことに端を発するケンカで失わないことであると考えて、<sup>A</sup>価値ある関係仮説を提唱しています。この仮説によれば、仲直りが起こりやすいのは、修復することです。これまで通り毛づくろいをしてくれたり、ケンカのとくに援助してくれる相手、つまり関係を修復すれば自分自身の適応度が高くなるような相手とケンカをしたときだということになります。そんな相手なら最初からケンカしなければいいじゃないかと思われるかもしれませんが、目の前の餌に<sup>ア</sup>目<sup>め</sup>がく<sup>く</sup>ら<sup>ら</sup>ん<sup>ん</sup>で<sup>で</sup>し<sup>し</sup>ま<sup>ま</sup>う<sup>う</sup>とか、（注1）過つは人の常であるだけでなく、サル<sup>サル</sup>の常でもあるでしょう。

ドウ・ヴァールは友好的関係を価値ある関係と言い換えています。筆者はこの言い換えにはたんなる言葉の好み以上の意味があると思っています。というのは、価値ある関係を維持するために仲直りがあるのだというのは、仲良し同士はケンカしても仲直りができるのだというのは仮説の検証可能性という点でまったく違うと思うからです。仲良し同士だったら仲直りできるというのは、もっともらしく聞こえるかもしれませんが、同じことを繰り返すだけのドウ<sup>a</sup>ギ<sup>ギ</sup>反<sup>はん</sup>復<sup>ふく</sup>になっています。「ケンカしても仲直りできる者同士」という表現を聞いた人が、「I 仲良しってことですよね」と聞き返したとしても違和感がないでしょう。とこ

るが、「ケンカしても仲直りできる者同士」のことを「お互いに毛づくろいやケンカのときの援助をする関係で、それを維持することで適応度が上昇する関係のことですね」と言われると、そこにはたんなる言い換え以上のものがあると感じられます。また、価値ある関係と言い換えることで、適応上のメリット、デメリットがはっきりわかることも大事です。

では、価値ある関係仮説はどのようにして検証されるのでしょうか。たとえば、自然に起こるケンカを観察して、普段から毛づくろいやケンカの援助をしてくれる価値のあるパートナーとは仲直りをしやすいことがわかったとしたらどうでしょうか。これは価値ある関係仮説と矛盾しない結果ですが、残念ながら、因果関係を厳密に検証したことにはなりません。なぜでしょうか？ここで、AとBという二個体がケンカをした後、仲直りをせずに、お互いに避け合うようになったとします。AとBがお互いに毛づくろいをするのではないでしょう。

Ⅱ、Aが他の個体とケンカをしていてもBは助けに行かないでしょうし、BのケンカをAが助けることもないでしょう。この二頭が再びケンカをしてもまた仲直りはしないかもしれません。この場合の因果関係をよく考えてみてください。「仲直りをしなかった」ことが原因で、「毛づくろいをしていない（＝関係価値が低い）」ことが結果になっている。これは価値ある関係仮説が想定する因果関係（関係価値が低いことが原因で、仲直りをしないという結果が生じる）とは正反對です。もちろん、これは架空の例ですが、関係価値が高いペアほど仲直りしていて、関係価値が低いペアほど仲直りしていないということを観察するだけでは、関係価値が高いと仲直りするのか仲直りしないと関係価値が下がるのか、どちらが正しいのかわからないのです。専門的な言い方をすると、**甲**があるということがわかっただけでは、どのような因果関係があるのかまではわからないということです。

因果関係を厳密に検証する研究方法は実験です。因果関係の「（原）因」を研究者が実験的に作り出して、それが「（結）果」を生じさせるかどうかを調べる研究方法です。たとえば、二頭のサルを選んで、その相手と協力すれば栄養価の高いおいしい餌がもらえるという訓練をするとうどうでしょうか。この訓練は必ず同じパートナーと行うこととします。そうすると、そのペアの相手は実験者が適当に選んだにもかかわらず、自分にとって適応度を上げる（おいしい餌を手に入れる）ために不可欠なパートナーになり

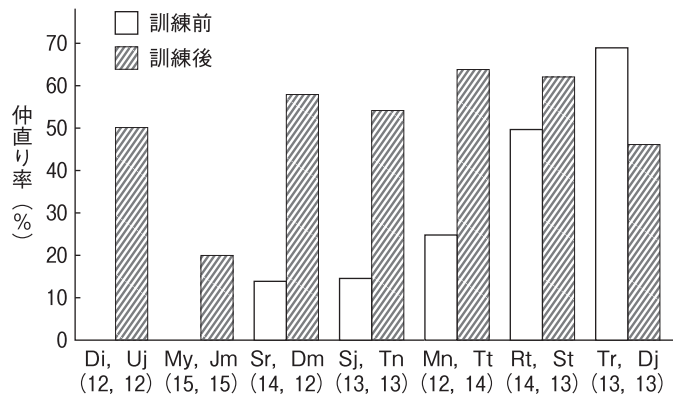


図 関係価値を上げる訓練が仲直り率に与える影響  
(出典) Cords & Thurnheer (1993) より作成。

ます。このようにして実験者が特定のペアの関係価値を高めることで、そのペアが仲直りをしやすくなれば、関係の価値を高めたことが原因で仲直りするという結果が生じたことになります。

実は特定のペアが協力し合えばおいしい餌をもらえるという実験は、筆者が考えたのではなく、実際にカニクイザルを対象に行われた実験で、元ネタがあります。カニクイザルは、ニホンザルやアカゲザルと同じくマカク属に含まれる種です。この実験では、訓練をする前と後に<sup>(注2)</sup> P C・M C比較法を用いて特定のペアの仲直り率が調べられていました。この実験の対象になったカニクイザルは、動物園の中に<sup>b</sup> 設けられた広いスペースで自然の環境と同じように何年も生活してきた群れのメンバーだったので、それぞれのペアの仲直り率はすでに安定した値になっていたと考えられます。そのような安定した仲直り率が、協力しておいしい餌をもらうという訓練によって変化したのでしょうか？

この実験の結果は、図に示されています。図の横軸にDi、Ujのように書かれているのは、カニクイザルの二個体のイニシャルです（その下の数字は各個体の年齢です）。図の左端はDiとUjというイニシャルの二頭のペアに対応する結果だということです。図の横軸から七ペアのサルが実験対象になったことがわかります。グラフの縦軸は仲直り率です。白いバーは訓練前、網掛けされたバーは訓練後の仲直り率です。DiとUjのペア、MyとJmのペアには白いバーがありませんが、これは訓練前にはケンカをしてもまったく仲直りをしなかったということです。グラフを見ると、右端のTrとDjのペア以外は訓練後に仲直り率が上がっていることがわかります。このように例外はありましたが、関係価値を上げると仲直り率が上がることで、つまり関係価値が高いことが原因で仲直りが結果であることがわかりました。

### Ⅲ

、この実験結果はあくまでカニクイザルのものです。ですから、他のサルで観

察されている普段から友好的な関係にあるペアほどケンカの後に仲直りしやすいというパターンが、必ず価値ある関係仮説で説明できるとは限りません。ですが、<sup>B</sup> 関係価値が「原因」で仲直りが「結果」として生じやすくなるという価値ある関係仮説の予測が少なくともカニクイザルでは支持されたという事実は重要です。価値ある関係仮説がまったく根拠のない荒唐無稽な仮説ではないということが示されたことになるからです。

## 〔文章B〕

セルフコントロールと仲直りに関係があると言われると、結局、仲直りは進化の産物ではなく、よくよく考えて行う合理的な計算の産物ではないかと思われるかもしれません。しかし、<sup>C</sup> 進化した行動傾向をセルフコントロールで部分的に制御できるからといって、<sup>C</sup> 進化の考え方を全面的に否定することにはなりません。

たとえば、私たちは生きていくために呼吸を続ける行動傾向をもっています。私たちは生まれてすぐに誰から教わることもなく呼吸をすることができずし、呼吸をしないと死んでしまいます。ですから、呼吸をするという行動傾向は進化の産物だと言っても反論は出ないでしょう。ですが、私たちは呼吸を意識的に止めることもできます。たとえば、水に潜るとき私たちは意識的に呼吸を止めます。呼吸を止めずに水中に入ると、肺に大量の水が入り死んでしまうので、このような状況に応じたコントロールは適応的です。つまり、ある行動を意識的にコントロールできるということは、その行動が進化の産物であることの 乙 にはならないのです。

もう少し考えると、これは無意識的で自動的な制御（呼吸を継続する）と意識的な制御（水に潜るので一時的に呼吸を止める）で行動を二重に制御しているとも言えます。ヒトの行動の例ではありませんが、カメラについて考えてみます。通常は自動的にピントや露出を合わせていても、被写体によってはマニュアルモードで細かい設定をしたいことがあるでしょう。自動モードとマニュアルモードが使えるのは二重制御の例です。自動モードとマニュアルモードが使えるカメラが便利だしたら、呼吸だけでな



く赦<sup>ゆる</sup>しにも二重の制御があっても悪くはないはずです。【1】

このことを理解して仲直りとセルフコントロールについて考えてみます。息を止めることが通常は適応的でないように、関係価値が低い相手をわざわざ赦すのは進化ゲーム理論の分析からは合理的とは言えないかもしれません。ですが、わざわざ空気のない水中に潜ることがあるように、諸般の事情で関係価値の低い相手のことも赦して関係を継続した方がよい場面もあるでしょう。

## 【2】

ところが、仲直りの場合にコントロールしなければならぬのは、相手に仕返しをしたいという怒り感情、相手の顔を二度と見たくないといった回避衝動です。感情というのは、なんとなく意識的に（注3）御しがたいものの代表のように思われて、セルフコントロールしにくいように思われるかもしれません。【3】

神経科学者のジョセフ・ルドゥーによれば、恐怖感情は神経レベルで二重に制御されています。

## IV

、あなたが山にハイキン

グに行き、目の前にとぐろを巻いたヘビがいることに気づいたとします。あなたの目が捉えたヘビの姿は、脳の中の視床という部位から、直接、感情反応を引き出す扁桃核<sup>へん</sup>という部位に送られるので、瞬時にヘビに対処する身体反応が生じます（これを近道処理と呼ぶことにします）。恐怖感情が引き出す反応は、戦うか逃げるか反応として知られています。戦うにせよ逃げるにせよ、利用可能なエネルギーをすべて出し切ってヘビに対処するための身体的な<sup>こ</sup>構えと言えます（日常的な表現をすれば、

## 丙

です）。それと同時に、あなたの目が捉えたヘビの姿は視床から頭の後ろの方（後頭葉）にある視覚野と

呼ばれる部位にも送られ、それが本当にヘビかどうか、ヘビであれば毒をもったヘビなのか等々、精緻な情報処理がなされます。

この処理には近道処理よりも時間がかかるので、これを遠回り処理と呼ぶことにしましょう。この精緻な遠回り処理の結果、それがじつはヘビではなくグルグルと巻かれたロープであることが判明したとします。この遠回り処理で少し遅れて得られた新たな情報<sup>ほ</sup>は、近道処理により始動した戦うか逃げるか反応を抑制することができます。たとえば、夜道を一人で歩いているとき、近所の家の飼い犬に吠えられたらギョツとして一瞬身構えるかもしれませんが、ですが、すぐに鎖につながれているから大丈夫とリラックス

スできるはずです。このように恐怖感情も近道処理・遠回り処理で二重に制御されているのです。これは恐怖感情に関する例ですが、感情とは御しがたいのでセルフコントロールがまったく効かないというわけではないことは理解していただけたでしょう。

#### 【4】

V、誰かがあなたを傷つけたり裏切ったりした場合、あなたが最初に感じるのは、相手に報復しようとか避けようという衝動かもしれません。しかし、その相手に報復したり、相手を避けたりするのは得策ではないと気づいたら、報復・回避衝動を制御できてもよいはずです。完璧なセルフコントロールが求められているわけではありません。水に潜るために息を止める場合も、永久に息を止め続けることはできません。同じように、セルフコントロールで相手に対する怒りが一瞬にしてム<sup>d</sup>サン<sup>e</sup>することはないでしょう。ですが、怒りにまかせて相手をバトウ<sup>e</sup>することを抑えることができるだけでも二人の関係の行方はまったく違ったものになるかもしれません。【5】

(注1) 過つ——過ち、誤りという意味。

(注2) PC・MC比較法——ケンカの後にはケンカした二個体が互いに近づいて親和的なやりとりをする頻度と、ケンカの後ではないけれどケンカをしたときと条件(時間帯や天気)が近い別の観察日に同じ二個体が近づいて親和的なやりとりをする頻度を比べる方法。

(注3) 御しがたい——他人を自分の思い通りに動かすことが難しいという意味。

問一 線部 a～e について、カタカナは 部が同じ漢字であるものを、漢字は読みがなを、各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号

1

5

a  
ドウギ

- ① ギコウを凝らす  
② 法案をシンギする  
③ ギゼンに満ちた社会  
④ ジギを得た発言  
⑤ ギエンキンを受け付ける

b  
設け

- ① あず  
② もう  
③ かたづ  
④ つづ  
⑤ しか

c  
構え

- ① おさ  
② こしら  
③ かま  
④ しつら  
⑤ ひか

d  
ムサン

- ① 派手にサンザイする  
② 大企業のサンカに入る  
③ 問題がサンセキしている  
④ ダサンの行動する  
⑤ シンサンをなめる

e  
バトウ

- ① 現実からトウヒする  
② 観客が入り口にサットウした  
③ 師のクントウを受ける  
④ 暑さのあまりソットウした  
⑤ しきたりをトウシユウする



問二 〜〜線部ア・イの本文中における意味として最も適切なものを、各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号 6 ・ 7 (ア… 6 、イ… 7 )

ア 目がくらんでしまう

- 6
- |                |                                       |                  |                  |                   |
|----------------|---------------------------------------|------------------|------------------|-------------------|
| ⑤              | ④                                     | ③                | ②                | ①                 |
| 邪悪な心が芽生えてきてしまう | 慇懃無礼 <small>いんきん</small> なるふるまいをしてしまう | 理非をわきまえる力を失ってしまう | 法規範を無視した行いをしてしまう | 人間性を疑われる行動をとってしまう |

イ 荒唐無稽な

- 7
- |              |               |               |             |               |
|--------------|---------------|---------------|-------------|---------------|
| ⑤            | ④             | ③             | ②           | ①             |
| 上辺だけで深い意味がない | 事態が混乱し收拾がつかない | 複雑に入り組み理解できない | 奥底まで見抜いていない | でたらめで全く現実味がない |

問三 空欄 I ～ V を補うのに最も適切な言葉を、次の①～⑧からそれぞれ一つずつ選べ（同じものを繰り返し用いてはならない）。

解答番号 8 ～ 12 (I… 8 、II… 9 、III… 10 、IV… 11 、V… 12 )

- |       |        |       |       |
|-------|--------|-------|-------|
| ① さて  | ② たとえば | ③ むしろ | ④ また  |
| ⑤ まして | ⑥ ただし  | ⑦ だから | ⑧ つまり |

問四 空欄 甲 ・ 乙 を補うのに最も適切な言葉を、各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号 13 ・ 14 (甲… 13 、乙… 14 )

- |        |        |
|--------|--------|
| 甲      | 乙      |
| ① 従属関係 | ② 利害関係 |
| ② 反証   | ③ 対等関係 |
| ③ 条件   | ④ 相関関係 |
| ④ 前提   | ⑤ 事実関係 |
| ⑤ 推論   |        |

問五 空欄 丙 を補うのに最も適切な言葉を、次の①～⑤から一つ選べ。

解答番号 15

- |                        |                        |
|------------------------|------------------------|
| ① 「ビビッと背中に戦慄が走って」という状態 | ② 「スーと血の気が引いていって」という状態 |
| ③ 「ゾッと鳥肌が全身に立って」という状態  | ④ 「キラキラと目を輝かせて」という状態   |
| ⑤ 「アドレナリンがドバッと出て」という状態 |                        |

問六 「文章A」中に傍線部A「価値ある関係仮説」とあるが、この仮説の真偽はどのようにして確認できるのか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

解答番号 16

- ① 普段から仲の良いペアと仲の悪いペアを観察し、仲直りするのはどちらであるのかを調べることで確認できる。
- ② もともと友好的な関係にあるペアを用い、安定した仲直り率がさらに上昇するのかを調べることで確認できる。
- ③ 特定のペアの価値を訓練によって高めて、仲直りするという結果が生じるのかを調べることで確認できる。
- ④ 価値ある関係を維持するための仲直りと、仲良し同士の仲直りとが同じであるのかを調べることで確認できる。
- ⑤ 関係価値が高いペアは低いペアより仲直りしやすいという因果関係は成立するのかを調べることで確認できる。

問七 「文章A」中に傍線部B「関係価値が『原因』で仲直りが『結果』として生じやすくなる」とあるが、関係価値以外にどうす

ることによって仲直りができるのか。「文章B」の内容を踏まえた説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

解答番号

17

- ① 友好関係にある相手には、仕返ししたいという感情が起こっても赦したほうが得だと考えることによって仲直りができる。
- ② 何が得策であるかをすこしの時間考えて、相手に仕返ししたいという感情の支配から脱することによって仲直りができる。
- ③ 仕返ししたいという感情が生まれても、合理的な計算をして瞬時にそれを完全に払拭することによって仲直りができる。
- ④ 無意識的な制御と意識的な制御の相乗効果により、相手に仕返ししたいという感情を抑えることによって仲直りができる。
- ⑤ たとえ関係価値の低い相手でも、進化の考え方に基づいて仕返ししたいという感情をなくすことによって仲直りができる。

問八 「文章B」中に傍線部C「進化の考え方」とあるが、「進化ゲーム理論」に基づく、仲直りについてどのようなことが言える

のか。「文章A」・「文章B」の内容を踏まえた説明として最も適切なものを、次の①～⑤から一つ選べ。

解答番号

18

- ① 仲直り率が安定している相手とは仲直りしようとするが、そうでない相手とは決して仲直りしようとしないうこと。
- ② 関係を修復したいと思う相手とは仲直りしようとするが、そうでない相手とも積極的に仲直りしようとするということ。
- ③ 適応度が低い相手とは仲直りして適応度を上げようとするが、そうでない相手とは仲直りしようとしないうこと。
- ④ 普段から仲の良い相手とは簡単に仲直りできるが、そうでない相手ともなんとなく仲直りすることができるということ。
- ⑤ 自分にとって有益な関係にある相手とは仲直りしようとするが、そうでない相手とは仲直りしようとしないうこと。

問九 次の文は、もともと〔文章B〕の中に記されていたものである。この文が入るべき最も適切な箇所を、後の①～⑤から一つ選べ。

解答番号 19

ですが、実際には感情も二重に制御されるようになっていて、示す証拠があります。

① 〔1〕      ② 〔2〕      ③ 〔3〕      ④ 〔4〕      ⑤ 〔5〕

問十 〔文章A〕・〔文章B〕を読んだ後に、教師から、〔文章A〕でサルについて述べられている内容は人間にも同様に当てはまると説明され、それを聞いた生徒が意見を発表している場面である。〔文章A〕・〔文章B〕の内容に合致しないものを、次の①～⑥から二つ選べ。ただし、解答の順序は問わない。

解答番号 20 ・ 21

① 生徒A——先週、Bさんとバスケットボール部の練習の仕方でケンカしたけど、そのあとすぐに仲直りしたよね。Bさんは、私の言い方がキツかったことに腹が立っただろうに、それでも感情を制御してくれたんだね。ありがとう。

② 生徒B——どういたしまして。普段のAさんを見ていて、Aさんがクラブのことを思ってくれているということが分かっていくからね。キャプテンであるAさんがクラブを辞めてしまうと、チームは求心力を失って試合にも勝てなくなってしまうしね。

③ 生徒C——しかし、犬猿の仲という言葉もあるように、みんな仲の良い者同士ばかりではなく、虫酸<sup>ず</sup>が走るほど嫌な人というのもあるよ。そんな人と、どんなことがあっても絶対に仲直りなんかできないと思うわ。

④ 生徒D——そうかな、今はそんなこと言っているけど、Cさんはきちんと自分の感情をコントロールできるじゃない。だから、ここは仲直りしたほうがいいかなと判断したら、きっと仲直りするって。

⑤ 生徒E——そうよ。Cさんは直情径行型の人間なんかじゃなく、忍耐強く情報処理をすることができるじゃない。もちろん、ケンカしたときは怒りの気持ち湧いてくるでしょうけれど、それを抑えることができるよ。

⑥ 生徒F——それはそうかもしれないけど、まあできるだけケンカなどせずに仲良くしておいたほうが良いと思うね。仲良し同士はケンカせずという価値ある関係仮説があるぐらいだからね。

## 第2問

次の各問いに答えよ。

### 問一

Tさんは、ある漢字の書き取りの問題について、次のような過程によって解答を決定した。

#### (問題)

- ア 今年に入り地価がトウキしている
- イ トウキを乱す者は処罰される
- ウ 不法トウキは禁止されている
- エ トウキ的な事業に関わってはいけない

#### (解答の過程)

辞書で「トウキ」という項目を調べたところ、解答の候補として次のような熟語とその意味の説明を見つけることができた。

・「投機」…Ⅰ

・「党紀」…Ⅱ

・「騰貴」…Ⅲ

・「投棄」…投げ捨てること

・「投企」…常に自己の存在の可能性を未来に向かって追求しようとする

ことから、

アⅡ「a」、イⅡ「党紀」、ウⅡ「b」、エⅡ「c」と解答を決定できた。



(1) 空欄 I Ⅲ を補うのに最も適切なものを、次の①～⑤からそれぞれ一つずつ選べ（同じものを繰り返し用いてはならない）。

解答番号 22 24 ( I … 22 、 Ⅱ … 23 、 Ⅲ … 24 )

- ① 党の事務をつかさどること。
- ② 商品の価値を市場が決めること。
- ③ 不確実だが、当たれば大きな利益を狙っている行為。
- ④ 党の規律や節度。
- ⑤ 物価や相場が上がること。

(2) 空欄 a c を補うのに最も適切なものを、次の①～④からそれぞれ一つずつ選べ（同じものを繰り返し用いてはならない）。

解答番号 25 27 ( a … 25 、 b … 26 、 c … 27 )

- ① 投機
- ② 騰貴
- ③ 投企
- ④ 投棄

問二 次の a ～ d の文の傍線をつけた部分を漢字に直した場合、正しいものを各群の ① ～ ④ からそれぞれ一つずつ選べ。

解答番号

28

～

31

( a …

28

、 b …

29

、 c …

30

、 d …

31

)

a

交通のヨウシヨウ

28

④ ③ ② ①  
将 賞 衝 省

b

ソウゴウを崩す

29

④ ③ ② ①  
相 想 装 総

c

肝にメイじる

30

④ ③ ② ①  
銘 命 明 名

d

ヘンセイフウが吹く

31

④ ③ ② ①  
辺 片 遍 偏

〔以下余白〕